



2016

愛媛大学工業会会誌

第30号



愛媛大学工業会

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学工学部内
Tel/Fax 089-927-9702(ダイヤルイン)
E-mail: kogyokai @ee. ehime-u. ac. jp
ホームページアドレス <http://www.eu-kogyokai.jp>

新居浜高等工業学校同窓会
新居浜工業専門学校同窓会
愛媛大学工学部同窓会
愛媛大学大学院工学研究科同窓会
愛媛大学大学院理工学研究科(工学系)同窓会

愛媛大学工業会会誌（第 30 号）目次

ご挨拶	工業会会長 武田 壽 (機 46)
工学部長の挨拶	
新しい理工系人材育成に向けて	工学部長 八尋 秀典
定年退職に際して	
退職に寄せてー冶金学科から機能材料工学科へー	猶原 隆 (院冶 50)
コラム	
最近思うこと～技術者の社会性～	渡部 公則 (生機 51)
講演会	
起業経験と学生への期待	塩梅 敏 (工化 45)
海外留学プログラム	
平成 27 年度海外留学短期派遣・受入プログラムについて	
	工学部国際連携委員長 安原 英明
海外研修報告	
台湾国際会議報告書	中村 徳子 (院生産環境工学 2 回生)
蔚山大学留学報告書	江良沙也加 (環建 3 回生)
韓国蔚山大学校交換留学 留学報告	志田 尚人 (環建 3 回生)
	橋元 一樹 (環建 3 回生)
Pacificchem2015 参加報告	橘 香 (院物質生命工学 2 回生)
Quality in Research (QiR) Conference への参加	Zulkfli-tTamir (院電子情報博士 2 回生)
国際学会参加報告書	井場 大貴 (院生産環境工学 2 回生)
学生海外研修報告書	今村 優介 (院生産環境工学 2 回生)
IMECS2016 参加報告書	矢野 隆成 (院生産環境工学 2 回生)
学生海外研修報告書	喜田 将平 (院生産環境工学 2 回生)
Student report for attending an international conference Y. E. A. Elsamani	(院生産環境工学 2 回生)
学生活動援助費	
学生活動援助費 (機能材料工学科) ー新入生合宿研修の報告	青野 宏通 (工化 61)
学生活動援助費報告ー情報工学科平成 28 年度新入生オリエンテーション	
	甲斐 博 (院情 H4)
支部だより	
工業会東京支部の状況報告 2015 年～2016 年	鳥海 基忠 (機 54)
東海支部活動便り	兵頭 修 (機 46)
平成 27 年愛媛大学工業会近畿支部の総会&懇親会報告	渡邊 武晴 (機 42)
岡山支部だより	石井 正男 (機 43)
広島支部報告	河野 徹 (土 42)

高松支部活動報告

谷 喜文 (院電 53)

高知支部報告

中村 考男 (鉦 40)

平成 27 年度『第 23 回愛媛大学工業会愛媛支部総会』報告

木村 正樹 (院機 54)

クラス会報告

昭和 36 年鉦山学科卒業同級会

林 千広 (鉦 36)

機械工学科昭和 38 年(1963)卒同窓会東京開催

美濃部 三郎(機 38)

電気工学科昭和 39 年卒クラス会

渡邊 健二 (電 39)

第 12 回電気工学科昭和 40 年卒クラス会

高山 直樹 (電 40)

生産機械工学科昭和 44 年卒業同級会

井上 要 (生機 44)

生産機械工学科昭和 46 年卒同窓会報告書

久米 一正 (生機 46)

平成 28 年度冶金学科参期会報告 (冶金学科, 昭和 45・46・47 年卒) 三好 良一 (冶 46)

二宮翔会活動報告

新型機体, 製作開始

代表 辻下 新也 (機 3)

テニス大会

第 37 回工業会テニス大会報告

十河 基介(生機H4)

本部報告

役員一覧

学内近況

訃報

寄付金のお願い

ご挨拶



愛媛大学工業会会長

武田 壽
(機46・博士物質H21)

工業会会員の皆様には、日頃より、本会の運営にご協力をいただきありがとうございます。今年の暑さは昨年同様に厳しく、快適に過ごすには、色々と工夫が必要でした。ここで、熊本地方の大地震にて尊い命をなくされた方々に哀悼の意を、また罹災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、今年は5月29日に理事会そして6月26日に役員会を本来の会則に基づいて別途開催しました。役員会では、新しく工業会名誉会長にご就任された八尋秀典工学部長にご臨席いただきました。そのご挨拶の中では、今年は新学部が創設されるなど、様々な課題に取り組まれていることが紹介されました。いろいろな面で協力体制を構築していきたいこと、期待も合わせてお話をいただきました。ありがとうございます。

また支部長の皆様におかれましては、遠路から理事会と役員会それぞれにご参集していただきました。御礼申し上げます。また開催に際して準備などに携わられた役員各位・事務局のご協力に感謝の意を表します。

今年度の理事会では、会則に則り、名誉会長・会長・副会長・顧問などは出席しない形で、理事長と常任理事・理事・監事の間で、ご議論をしていただきました。昨年の理事会兼役員会にも増して、熱のこもった活発な討議の結果として、工業会会員の皆様よりご期待される「ホームページの刷新」と「名簿管理のあり方」などを中心に事業計画の議論を尽くしていただきました。さらにまた各支部からの事案や常任理事会にて検討された事案も、理事会でしっかりと討議し、そして役員会で承認されました。

お蔭様で役員会にて承認されました「平成28年度事業計画及び予算案」、「役員改選」、「会則の改訂」などを、工業会会員各位のご意見、ご協力を得ながら、「平成28年度の実業」として活動することができます。

「ホームページ」については、各支部総会の

案内や支部総会の報告などが各支部を通じて掲載されておりますが、各支部の支部長そして幹事や会員の皆様のご協力に感謝しております。この夏には、さらにHPも一新できることになりました。また「名簿管理」については、実現可能な具体策を検討していただきましたが、個人情報管理の徹底などの事情もあり、1年遅れてしまいました。お詫び申し上げます。また、ご担当された常任理事や委員の方々には、お忙しい中でのご検討ありがとうございます。

「工業会会則」も実情に合わせて改訂されますが、いままでの諸先輩方のお考えが込められた「工業会会則」に則り、様々な課題はあるものの、工業会の「会員相互の親睦を図る」との目的に沿った「事業」、「支部活動」、「大学運営への参画」などを、工業会会員の皆様とご一緒に進めていきたいと思っております。特に新しく会員となられました皆様にも、工業会の事業をご理解して、是非事業活動および各支部総会へ参加していただきたく、またこの会誌が無事お届けできるよう、「連絡先」などの「情報提供」をお願いいたします。

ここで昨年度の私の最優先行動計画としておりました「各支部総会への全参加」について、実現できたことをご報告いたします。これも各支部長はじめ支部幹部・会員の皆様のご協力のお蔭です。9月の東海支部総会を皮切りに、各支部の皆様と親しくお会いできました。その節はありがとうございました。

この場をお借りしてもう一つ、ご報告いたします。去る7月23日の「校友会」総会において、校友会会長に高橋祐二氏（冶金51）が、また同副会長（常任理事）には、野村靖記氏（法文学部同窓会）と私が就任いたしました。

最後になりましたが、愛媛大学、また工学部・理工学研究科、そして校友会と各学部の同窓会・後援会各位の今後益々のご発展と、工業会会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。

工学部長の挨拶 新しい理工系人材育成に向けて



愛媛大学工業会名誉会長（愛媛大学工学部長）

八尋 秀典

愛媛大学工業会会員の皆様には日頃より愛媛大学工学部に対しまして、一方ならぬご支援を賜り

まして心より御礼申し上げます。私こと、本年4月より愛媛大学工学部長を拝命いたしました。昭和62年九州大学大学院を修了後、宮崎大学、北海道大学、広島大学を経て、平成10年に愛媛大学に着任いたしました。色々な大学を渡り歩いた経験を活かし、微力ではありますが、愛媛大学工学部の発展のために全力を尽くしたいと思っております。よろしく申し上げます。

さて、ご存知のように全国の国立大学が法人化して12年の月日が経過いたしました。この12年間は各国立大学がそれぞれの“強み”を育てる期間でした。幾多の議論および文部科学省との折衝を重ねて、愛媛大学は、(1)地域の持続的発展を支える人材育成の推進、(2)地域産業イノベーション創出機能の強化、(3)世界をリードする最先端研究拠点の形成・強化、の3戦略を掲げることになりました。これは産業の大都市集中型から脱却して、まち・ひと・しごと創生の総合戦略、いわゆるローカルアベノミクスの推進とリンクし、本学は地方のステークホルダーとともに人を育て、産業を活性化させるミッションを課すことになりました。また、昨年3月に文部科学省が理工系人材育成戦略を公表しました。次世代のイノベーションや産業基盤を支え、活躍できる若い人材を国家として育成せよというものであります。工学部は平成3年より、機械工学科、電気電子工学科、機能材料工学科、応用化学科、環境建設工学科、情報工学科の6学科体制で人材育成を行ってまいりましたが、新時代に向けてどのような分野で活躍できる人材を育てるのかを考え直す時期にきたのかもしれません。現在の国の大きな流れの中で、

愛媛大学工学部の諸先輩方が築いてきたこれまでの歴史を受け継ぎながら、地域産業を牽引できる理工系人材、グローバルに活躍できる理工系人材をバランスよく輩出することが工学部の現教職員の務めであると感じております。愛媛大学工業会会員の皆様におかれましては今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本誌面をお借りして最近の工学部・理工学研究科の動きを少し紹介します。平成26年に新居浜市に「愛媛大学工学部イノベーションセンター」を設立しました。このイノベーションセンターは瀬戸内屈指の工業集積地である東予地区に工学部の産学連携拠点を置き、地域との共同研究や産業振興に積極的に参加することを目的として設立されたものです。今後、中予地区企業との共同研究数の増加や学生の就職先の増加に繋がることを期待しています。また、平成28年から理工学研究科修士課程の定員が10名増加しました。これは社会人の再教育（リカレント教育）への本学の取り組みが評価された結果で、少子化が進む中、文部科学省が定員増加を認めるのは極めて珍しいことです。これからの高等教育機関は高卒者だけを対象とするのではなく、一度社会に出た技術者等の再教育の場としての役目を果たすこととなります。そのほか、留学生の受け入れもここ数年増加しており、グローバルな視野を持つ技術者・研究者育成も少しずつ定着してきています。工業会会員の皆様におかれましては、是非、愛媛大学工学部へ足をお運びいただき、現在の姿をご覧いただければと思います。

最後になりますが、愛媛大学工業会会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念するとともに、今後とも愛媛大学工学部の活動に対しまして、一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

退職に寄せて - 冶金学科から機能材料工学科へ -



猶原 隆 (治48・院治50)

平成28年3月31日を以って、愛媛大学工学部を定年退職いたしました。残念ながら、誇るべき教育・研究成果を上げることができませんでしたが、無事に勤めを終えることができたことに安堵しています。最初の所属学科は「冶金学科」であり、その名称は時代とともに「金属工学科」、「材料工学科」、さらに「機能材料工学科」へと変遷を遂げました。私の研究テーマも、「材料工学科」の時代までは、ステンレス鋼や非晶質合金などの金属材料に関するものでした。しかし、「機能材料工学科」の時代になって、「医理工連携」による癌の焼灼療法に関する研究プロジェクトに参画することになりました。私の分担領域は、高周波磁場中で発熱させて腫瘍を焼灼する、「チタン被覆磁性体針」の開発や熱伝達挙動のシミュレーション解析でした。従来 of 学部の枠組みを取り払って、研究分野のまったく異なる医学部や理学部の先生方と共同研究を行ったことは、私にとって得難い体験になりました。また、学科内においても、研究室の枠を超えて青野宏通先生（工化61）と共同研究を続けさせていただきました。ドレスデン（ドイツ）、パドヴァ（イタリア）、さらにカンヌ（フランス）など、ヨーロッパ各国で開催された国際会議にご一緒に参加したことは、私にとって何よりも楽しい思い出となりました。

このように、私の研究テーマは「冶金学科」、「金属工学科」の時代から著しく脱線(?)してしまいました。しかし、冶金学、金属工学に関する研究の伝統は、多くの先生方により脈々と受け継がれています。「冶金学科」の時代の非鉄冶金学、金属材料学、溶接工学に関する研究は、これまでの歴史を踏まえた上で、新しい時代に即した高いレベルに到達しています。最近

では、材料強度学、鉄鋼材料学、金属精錬工学を専門とする、新進気鋭の若い先生方が着任されており、益々の充実が図られました。

例年、「機能材料工学科」では愛媛大学工業会から「学生生活動援助費」をいただいて、一泊二日の新入生合宿研修を実施しています。一日目の研修では、大洲市の「国立大洲青少年交流の家」において、教員と大学院学生による学科紹介のガイダンス、親睦を深めるためのバーベキュー、さらに様々な材料に関する講話が行われます。そして、二日目には新居浜市の「別子銅山記念館」まで足を伸ばして、別子銅山と近世の冶金学に関する歴史を学びます。新入生を対象とするこの行事には、「機能材料工学科のルーツは、別子銅山にゆかりを持つ冶金学科である」ことを明確にする狙いが込められています。

昭和60年代以前の卒業生の皆様方の中には、「冶金学科、金属工学科はいったいどうなったのか？」との思いを抱かれる方がおられると存じます。本稿によって、「冶金学科」の名称は失われましたが、その歴史と伝統は「機能材料工学科」に連綿と受け継がれているをご理解いただければ幸いです。「機能材料工学科」は金属系の他に、機械系、化学系、電気系、さらに物理系などの幅広い研究分野から構成されています。一般的に、「研究分野の拡がりは、学科としての纏まりを難しくするのでは？」との見方があるように思います。しかし、「機能材料工学科」では、それぞれの研究分野を尊重しつつ、教職員全員が一致協力して教育と研究を推進しています。

「冶金学科」さらに「金属工学科」の卒業生の皆様方に、「機能材料工学科」への一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

最近思うこと ～技術者の社会性～



愛媛大学工業会理事

渡部 公則 (生機51)

1. はじめに

昨年、エネルギー関連の会社勤めを終え、毎朝ゆったりと新聞やテレビを眺める時間を持つようになりました。そして、かつて居た技術者の世界を社会の視座から捉えることができるようになったことから、最近想っていることをお伝えしたいと思います。同窓の皆様になにがしかのご参考になれば幸いです。

2. 企業不祥事

この1年の多くのニュースの中で気になったのは企業不祥事がマスメディアを賑わしてきたことです。マンションの基礎杭、自動車の排ガスや燃費、建物の免震ゴム性能におけるデータ改ざんや不正など、技術者の関わった事案がいくつも報道されています。企業のブランド価値が棄損され、技術者への不信感も高まっています。今やこの種の問題は、企業における大きな経営リスクとなっています。

通常、技術者は組織の一員として活動しており、社会からの要請と組織内の要求論理のはざままで軋轢に苦しむことが往々にしてあります。米国スペースシャトルのチャレンジャー号爆発事故は典型的な事例です。技術者が低温で燃料用Oリングのシール性が劣化する危険性を指摘しながら、経営層の組織の論理を優先させた結果悲惨な事故を招いたものです。似たような事例はどの分野にもありうる話でしょう。

作業安全の世界でよく知られている「ハインリッヒの法則」を企業不祥事にも当てはまると大胆に仮定すれば、報道される1つの事案の陰には300のヒヤリハットの事案が隠れているわけです。したがって、報道されていることは他人事ではなく、我々の身近でも経験しうる事柄が深刻化して行ったもので、他山の石とすべ

きものと思われま

きものと思われま。我が身を振り返ると、反省ばかりが先に立ち恥じ入るばかりですが、一方で同窓の皆様が同じ轍を踏まないために想いをお伝えすることも一つの罪滅ぼしと思われましますので話を続けます。

3. 社会の視線

最近の組織における不祥事は技術者の倫理観が劣化しているのか、それとも技術レベルが低下したのかと心配になります。しかし、これは技術者側の単独の問題ではなく、評価している社会の方が不祥事に対して厳格になってきているからのようです。我が国が「グローバルスタンダード」を導入したことにより、違った文化の価値基準を社会が受け入れ、急速に情報の開示や公正さを要求し、また人々の権利意識の高まりが社会に定着したことが大きな要因と考えられます。社会のルールについても製造物責任法、情報公開法、公益通報者保護法などが新たに制定され、更には企業のガバナンスも強化されてきました。

他方、ヒトによる価値観の揺らぎなどのない事物を取り扱っている技術者やその組織体は、社会の変化を十分に認識できていなかったのではないのでしょうか。そして、そのギャップの部分にマスメディアがスポットライトを当て、社会からの批判を受けているのが現状のようです。社会からの要請に対する技術者の感度の大切さを感じます。

私は現役時代には比較的社会との接点を持つ部署に多く配属されていたことから、技術者が真摯な態度で取り組んだ仕事は必ずしも正當に社会から評価されるとは限らないことも経験しました。トラブルが生じたときの記者会見ではほとんどが文科系出身の記者であり、専門用語

を排して分かりやすく技術的な内容を正確に伝えることは非常に難しく、もどかしさを感じました。また、実は記者の最大の関心事はそこではなく、技術者あるいは会社組織が不都合なことを隠し、言い逃れをして社会を欺いているのではないかとの視点で厳しく追及をされることを学びました。

4. 社会からの信頼と技術者倫理

相次ぐ企業不祥事や福島での原子力発電所事故などの影響により、技術者が社会の信頼を失いかけていることが今の大きな問題だと思います。

社会の信頼を技術者が得るには、第一に高い技術力と誠実な行動が不可欠です。ただし、一方的に技術論と誠意を前面に押し出しても理解は容易に得られません。社会のためにと真摯に努力して専門分業化した高度な技術が、皮肉にも、一般の方に理解しづらいものとなりました。更に学際・業際を超えてシステム全体を俯瞰して語れる技術者が多くはないことから、社会からの不安や不信感を招いたのでしょう。昨今、社会の中で重要な影響力を持つ複雑高度な技術問題に対しては、自然科学分野だけでは答えの見いだせないトランスサイエンスの分野における対応が重要視されています。うまく解決策として機能するかはこれからの課題です。

さて、退職後に一度、母校の学生さん達に講演する機会を与えて頂きました。そこで、彼らがこれから技術者として社会に羽ばたくにあたって、広い一般教養に裏打ちされた技術者倫理を身に着けて活躍して欲しいことを伝えました。具体的には、「倫理的に困難な問題に遭遇した時には各学会が定めた倫理要綱類を判断の

物差しとし、自らよく考え都度適切に判断していこう」と。勿論、倫理の世界では常に明快な解決策が見つかるとは限りません。そこで、「どうしても判断に迷う時には、その判断が胸を張って自分の家族に対して説明できるものなのかを自問すれば良い」とのアドバイスをしました。

卒業後永い年月が経ち、学生時代に技術者倫理を学んだ記憶が私自身にはありません。ただ、学生や若い現役技術者に、技術そのものに加えて技術者倫理や社会性を修得してもらうことは、複雑に変化する社会の中で、自らの生き方を見失わないために大切なことと考えています。更には、我々技術者全員が社会の信頼を得るため、本来の技術力に加えて持ち合わせておくべき基本的な素養のひとつであろうと思います。

現在第一線で活躍されている技術者の皆さんは様々な制約の中で厳しい判断を迫られることも多々あると推察致しますが、常に社会の視線を意識し、双方向の意思疎通を図りながら信頼される技術者としてご活躍されることを願っています。そして総合大学の卒業生として、他学部と同窓の皆さんとの繋がりが更に社会の中で偏りのない軸足を築いてくれるものと思います。

5. おわりに

技術面に偏りすぎていたかなと感じた方は、前向きな技術者の倫理観のもと、社会からの信頼を得て充実した誇りある技術屋人生を送るため、社会への感度を上げた生活を始めてみませんか。

講演会

起業経験と学生への期待

講師：株式会社NPシステム開発
社長 塩梅 敏 (工化45)

講演日：平成28年8月3日(水) 14:30-16:00

担当：物質生命工学専攻・応用化学コース

講師 伊藤 大道

平成28年8月3日に開催した講演会を工業会に主催していただきましたので、ご報告致します。

講師をお願い致しました塩梅敏氏は、応用化学科の前身である工業化学科を1970年にご卒業後、大日精化工業株式会社に入社され、ポリウレタン樹脂の研究開発に従事されました。そして、数々の成果をあげられ12年勤められた後、1983年には松山で起業されました。現在も社長としてご活躍中です。塩梅氏が経営するNPシステム開発は、車載のデジタル式運行記録計(デジタコ)を中心に開発しており、業績は右肩上がりの急成長を続け、全国にも支店を配しており、さらにはアジアを中心とした世界に事業展開をされています。講演会の参加者は25名で、大半が応用化学コースの大学院の学生、つまり塩梅氏の後輩です。

どうなる？ 今後の日本！

塩梅氏のご略歴を紹介していただいた後、この先の日本はどうなるのか、その中でどう生きていくかという話題でご講演が始まりました。これから学生が出て行こうとする日本社会は、少子高齢化、人口減少、社会保障費の増大などで厳しくなっていくのは間違いありません。2050年には世界GDPに占める日本の割合が半減するとの予測もあります(英エコノミスト編集部「2050年の世界」)。そんな中で、学生はこの先どう考えていけばいいのか、塩梅氏のこれまでの人生をひとつの経験として、以降のご講演が続きました。

松山での価値創造と世界への価値提供

塩梅氏が起業したNPシステム開発は、運送

会社専門のオフィスコンピュータソフトの作成からスタートし、それが現在の主力商品であるデジタコに受け継がれています。今日、多くの機械にソフトウェアが搭載され、それをインターネットでつなぐIoTの技術が広まっています。デジタコの場合は、まず運行記録データをIoTで収集し、データを解析して人の運転のクセなどの現状を把握することで、安全運転や燃費削減に役立てることができます。デジタコのような売れる商品を通じて、価値を松山で創造して世界に提供することで世の中の役にたつと述べられています。そして、さらに多くの人と価値を共有するために、現在は上場を目指して奮闘しているそうです。

デジタコ本体は純機械部分と組込みソフトの部分とで構成されています。NPシステム開発では当初はコンピュータ側のアプリケーションソフトウェアの開発だけをしていたそうですが、顧客ニーズがわかっても答えが出せないことにもどかしさを感じ、デジタコ本体(純機械と組込みソフトの両方)を手がけて開発、製造をするようになりました。こうすることで市場のニーズに的確かつ迅速に対応できるだけでなく、主体的に取り組めるものづくりが可能になっています。

意志決定・批判的思考・人との出逢い

塩梅氏は会社を経営する上で、これまでに幾度も重要な意志決定をしてきました。聴講していた学生も、社会に出てしばらくすると責任ある立場になって、組織としての意志決定をしなければならない場面には必ず直面します。そのときに物事を考える上で重要なのは批判的思考で

あり、まずはいろんな見方をして様々な案を出す必要があります。そして、「あるべき姿」を追及し、「語尾が肯定」となる思考をして、「だから、どうする」を考える。たとえば高齢者に対する大量の薬の処方、駐車場の自動支払機に立つ係員など、当たり前だと思っていることの中には多くの無駄があることを挙げ、批判的思考でもって「だから、どうする」までの考え方をわかりやすく説明していただきました。

塩梅氏が意志決定をするにあたって、もうひとつ重要だったのが人との出逢いだということです。運送を専門にソフトウェア開発をすることで他社との差別化ができたため、様々な人や大手企業からも「運送のことだったらこの会社に」という話をもらえるようになったそうです。車載システムを始めたのも、顧客のニーズに応えたのが始まりだったとのこと。その上で、新しい物事にチャレンジしていく精神、そしてチャレンジすることで次につながる可能性があるという気持ちがあり、意志決定をしていったというお話をしていただきました。

ひとりの人として

人との出逢いが重要というお話に続き、人として、社会人として重要と考えることをいくつかお話しいただきました。まずは、無知を自覚することで謙虚な姿勢になること。コミュニケーションをとるということは、相手のアタマの中身を自分の言葉で表現して相手の諒解をとることであり、知ったかぶりをせずに謙虚な姿勢で相手の話を理解することで、相手を満足させるための行動が可能になります。次に、人の本質はちょっとした行動で見抜かれることを、例を出してわかりやすく説明していただきました。さらに、反省の重要性を強調されました。反省をすることで、今日よりも明日、明日よりも明後日を良い日にすることができること、そして失敗しても、反省することでその失敗を人生の成功につなげることが可能になるとお話しいただきました。

地方で「共利共生」を考える

最後に、「稼ぐ」「儲ける」ことに学ぶことが重要だというお話をいただきました。自己実現

欲求を満たすのは、社会の役にたつことです。企業は価値を提供して世の中に貢献することで利益を確保し、持続的に生産的な行動をとることができます。そして持続可能なところに人が集まります。したがって、「地方の活性化」は「稼げる仕組み」を考えることが重要な要素です。もちろん「稼ぐ」ことがすべてではありませんが、外してはならない条件だということを指摘されました。



講演中の塩梅氏

ご講演の後、学生と塩梅氏、さらにNPシステム開発の社員の方々との懇親会が開かれました。塩梅氏や社員の方には学生の話をお聞きいただき、学生も楽しんでいただけたようです。また、社員の方が学生に楽しそうに仕事の話をしているのを見ると、会社の雰囲気の良さがよくわかります。塩梅氏のご講演で話されたことを会社で実践している何よりの証拠です。

ご講演の中で塩梅氏のご自身をひねくれ者とおっしゃっていたのですが、私はむしろ逆に、信念をもった真っ直ぐなお人柄を感じました。業績も社風も社員も素晴らしい会社が松山にあり、しかも応化のOBが起業して経営しているのは、大いに学生の励みになったと思います。社会に出るとはどういうことか、講演会と懇親会を通じて、塩梅氏にはその好例を学生に示していただきました。

なお、本講演会を開催するにあたって工業会には多大なご支援をいただきました。また、NPシステム開発の方々にも大変お世話になりました。そして塩梅氏には、お忙しい中、学生のために貴重なお時間を割いてご講演をいただきました。御礼申し上げます。ありがとうございました。

海外留学プログラム

平成27年度海外留学短期派遣・受入プログラムについて

大学院生産環境工学専攻
教授（工学部国際連携委員長） 安原 英明

平成27年度海外留学支援制度・短期留学派遣・受入プログラムについて報告させていただきます。まずは、本プログラム実施に当たりご支援いただきました愛媛大学工業会に対して、工学部国際連携委員会を代表して厚く御礼申し上げます。

本プログラムは、派遣・受入の両方のプログラムがありますが、主に派遣プログラムについて詳述します。派遣プログラムでは、理工学分野の「グローバル高度専門職技術者」を目指す愛媛大学大学院理工学研究科博士前期・後期課程の学生が交流協定を結んでいるインドネシアのガジャマダ大学、バンドン工科大学、台湾の

高雄第一科技大学、交通大学を訪問し、講義・実験・実習を受講するだけでなく、その国の研究機関、産業施設や日本人が働くその地域の企業などを訪問します。また、派遣学生は各大学への訪問時に受入れ先の大学の関連する専門分野の研究室もしくは研究所に配属され、各自の研究内容について現地の教員及び学生と交流し、議論を深める機会が与えられます。これらのプログラムを通して、派遣学生は理工学分野の高度な知識・技術を習得するだけでなく、諸外国の就業環境や技術状況を直接見聞し、国際展開力を涵養することが期待されます。その他にも、派遣国の文化的活動や祭事などへ積極的



派遣先（インドネシア）での実習・現地調査風景

に参加し、現地学生との交流を深める機会もあります。平成27年度については、8月末から1か月間、ガジャマダ大学に16名、バンドン工科大学に4名、台湾の国立高雄第一科技大学に1名、国立交通大学に1名の計22名を派遣しました。なお、派遣学生には、インドネシア7万円、台湾6万円が支給され、交通費・ビザ・予防接種・海外旅行保険・食費等の費用を支弁しました。本プログラム参加学生へのアンケート結果からコメント例を下記に示します。

「例①：本プログラムに参加して英語によって気持ちを思うように伝えられないもどかしさを痛感しました。それと同時に意思の疎通ができた喜びも感じました。今まで見えなかった世界が自分の目の前に広がったように感じました。」、「例②：留学先での実験・実習・現地調査を経験して躊躇しがちだった自分から積極的に行動できるようになりました。留学後に、国際会議での発表に挑戦しました。」、「例③：交換留学中に色々な国から留学生が来ていたので、彼らと話をすることで、より大きなスケールで物事を考えることができるようになったと思います。語学力もアップし、コミュニケーション

ン能力が向上したと思います。何事にも臆さない姿勢や前向きに行動するようになったと思います。」以上のように、派遣学生は留学を通して自己研鑽できたようであり、今後も本プログラムを継続すべきという確信を得ました。

一方、受入プログラムについては、上記のガジャマダ大学、バンドン工科大学、高雄第一科技大学、交通大学より、学部・大学院生を派遣学生数と同程度（計29名）受入れ、関連分野の研究室で1か月間教員および学生と交流を行いました。また、受入学生は実験・実習だけでなく、松山市内外を観光して、さらに日本に興味を持ったようです。派遣と受入プログラムを連動させたことにより学生間の交流が活発となり、本学学生の英語を使用したコミュニケーション力および国際感覚の涵養に役立ったようです。また、受入学生が本学への長期留学を検討しているなど、本学部の国際交流に深化と継続性をもたらしており、本年度はさらに規模を拡大して実施する予定です。特に、平成28年度は、上記の四大学に加えてマレーシアのマラヤ大学との派遣・受入プログラムを開始いたします。



派遣・受入学生との記念撮影

蔚山大学留学報告書

環境建設工学科

3回生 江 良 沙也加

8月26日から4か月間、韓国蔚山に交換留学に行った。4か月も海外で生活したことがなかったため、私にとってはすべてが新鮮で、すべてが勉強であると感じた。

韓国語も英語もあまりできないまま留学に行ってしまったため、とても不安で、始めの頃は消極的であった。しかし生活していくうちに、積極的に行動しないと友達を作ることも難しいと思い、自分から進んで多くの人と関わる機会を作った。飲み会などにも積極的に参加したが、1番はCCという文化交流を行う活動であった。いろいろな国からの留学生が集まって、それぞれ自分の国の紹介をするという活動であった。この活動に参加したことでさまざまな国の友達ができ、さまざまな国の人と触れ合うことで、自分の知らなかった長所や短所を知ることができた。また、考えの幅も広がり、自分の将来についても以前よりもっと真剣に考えるようになった。これから私は就職活動が始まるので、自分の長所や短所が知れたとてもいい機会であったと感じた。

そして、私の留学の目的は単位取得と語学力の向上であった。単位は、同じ授業を受講していた韓国人の人たちが、課題やテストのことを教えてくれたり、たくさん助けてくれたおかげで、すべて取得することができた。語学力だが、留学に行く前は、韓国語での挨拶と自己紹介くらいしかできなかった。しかし留学後半には、韓国人の友達と簡単な韓国語で会話できるように上達していた。4月に韓国語能力試験を受験予定なので、どれだけ上達したのか実力を試してみようと思っている。また、他の国の人とはほとんど英語で会話しており、空いた時間に

TOEICの勉強もしていたため、TOEICの点数も100点以上伸ばすことができた。そのため、語学力の向上という目的も果たせたのではないかと思う。

今回の4か月の留学を経て、私はもっと長期の交換留学プログラムがあれば参加したいと思った。なぜなら語学を身につけるにも、その国のことを十分に知るのにも4か月では短いと感じたからだ。また、個人で行く留学よりも交換留学プログラムの方が、単位が取得できるため留年の心配もなく、学校から手厚くサポートしていただけるので安心して留学に行くことができる。そして、何よりも奨学金の支援をいただけたため、留学費用の負担が少なく、利用しやすいと感じた。今回のこのような貴重な経験を、今後の生活や活動に生かしていけるようにこれからも頑張ろうと思った。



CCの活動での写真

韓国 蔚山大学校 交換留学

環境建設工学科

3回生 志田尚人

環境建設工学科が進める、アジア各国の提携校と交換留学を行うことにより学生個々の能力を高めるKSAプロジェクトの一環として、私は4ヶ月間の短期プログラムに参加した。愛媛大学環境建設工学科と蔚山大学建設環境工学部との間で平成23年度から交換留学プロジェクトがスタートしている。短期プログラムの対象は3回生以上、期間は9月から12月。内容は、英語又は韓国語で行われる講義に出席、単位の取得、研究室に所属・研究の実施などである。

普段、日中は学科の授業を4教科、夕方から夜にかけて韓国語の講義を受け、環境建設分野と韓国語の両方を学ぶことができる。外国人留学生向けの韓国語講座によって、ほとんど記号にしか見えなかったハングルが読め、簡単な会話も理解できるようになった。一方英語は、私の所属した研究室の授業で、毎週英単語を覚える課題が出されていたため、語彙力がとても高まった。また、親しくなった韓国人学生などと英語で会話することによって自分の意見を伝える術を身につけた。講義形式の授業ばかりでなくトンネル工事現場や廃棄物処理施設を見学することもあり、海外の環境建設分野の技術などを知る良い機会となった。

私にとって今回の海外経験は3度目、更に前の2回とも韓国だったためすぐに馴染めた。一番苦労したことと言えば言葉だ。留学の場合、

現地の人たちだけでなく多くの外国人と交流することになり文化や言葉の違いには苦労する。どこの国の留学生たちも英語を話すことができ、その点では私たち日本人はかなり劣っていて惨めに思った。留学前にある程度英語を身につけていれば、どれだけ多く友達ができただろうと後悔もした。しかし、留学しているからには交流すべきだと思い、言葉の壁に屈せず積極的に話しかけるようにした。ルームメイトをはじめ、たくさんの日本人留学生にも助けられ、楽しく生活することができた。

この短期留学の経験は自身にとってプラスばかりで、今後の自信になることは確かだ。留学を通して、今の自分は勉強不足で知識もなく、これから学ぶべきことが多くあると感じた。しかし、本当にやりたい職業を見つけられず、学ぼうにも学べない現状がある。これから進む道を決定するためにも早めに自分と向き合う必要があると思った。

今後どの職業に就くとしても英語を使えるようにならなければならないと、身に沁みて実感した。留学生に限らず、大学生なら英語が話せるのは当たり前だと言わんばかりの外国人留学生の流暢な英語に衝撃を受けた。日本人だから話せなくて当たり前と思ってサボってきた自分に喝を入れて、まずは英語を頑張りたい。



留 学 報 告

環境建設工学科

3回生 橋 元 一 樹

私は2015年の9月から2016年の1月まで台湾の高雄大学へ交換留学に行ってきました。海外に長期で滞在するのは初めてでしたが、行く前の不安が何だったんだと思うほど留学生活は楽しく、とても実りのある留学になりました。

僕が台湾を選んだのは、親日な人が多く、中国語と英語の力を伸ばせるからだと思ったからです。中国語は学んだことがなかったので、一からのスタートでしたが留学を終えた今では、一人で旅行に行っても困らないくらいの力がついたと思います。英語に関しては、基本的に使っており授業も英語を使っている講義をとっていたのでリスニング力は行く前に比べて伸びていると実感しています。スピーキングに関しては多少伸びているとは思いますが、やはりカタカナ英語になってしまい伝わらないことがあったので、発音という事に関しては今後の課題だと考えています。

日常生活では友達のおかげで毎日が楽しく充実していました。ひと月に3回くらいは観光に行ったり、行かない時はサークルに参加したりと僕の中では日本にいるときに比べてアクティブな生活だったと思います。日本では経験したことのないウェイクボードを体験させてもらったことは大きな思い出になりました。サークルは硬式野球とギターに参加させてもらいました。サークルのメンバーはどの人も優しく英語や簡単な中国語でコミュニケーションを取ろうとしてくれたのでとても助かりました。ギター部では皆が日本のことについて質問してくれたり、日本の好きな音楽を教えてくれたりしたんですが僕の知らないものもあり、日本がとても愛されていることをうれしく感じました。

他には、文化の違いから学ぶことも多かったです。例えば「がんばれ」という意味の「加油」はあるんですが「がんばる」という意味を直訳できる言葉はなく意味は近いんですが「努力」と言い換えたりするには興味深いところがありました。そして、日本では僕はあまり知らな

かったランチの文化がちゃんとあるので、休日はみんな10時過ぎくらいまで寝ていて、朝食と昼食を一食で済ませていました。僕も休日は結構寝ているのでその文化を気に入っていました。

留学を通して、海外という場でこれまでの自分の考えの甘さや視界の狭さを教えられたので、人間的に成長できたと思います。そして、これからも海外で感じたことをもとに、自分の考えを多角的に持つことができると考えています。この自分の意見をもてるということが、これからの学業や就職活動に役に立っていくと思っています。



国際学会参加報告書

大学院生産環境工学専攻博士前期課程

2回生 井場大貴

以下のとおり国際学会参加の報告を致します。

1. 学会名

The International Multi Conference of Engineers and Computer Scientists 2016

2. 日時

2016年3月16日～2016年3月18日

3. 学会の感想

香港で開かれた国際学会に参加し、英語での発表、質疑応答を行いました。

また、自分が発表するだけでなく他の人の英

語の発表や質疑応答を聞きました。

私にとっては初めての海外でした。英語での発表や、会場までの道のりなど英語を使わなければならない場面が多くあるため香港に到着後は不安でしたが、なんとかコミュニケーションをとることができました。また、学会だけでなく、はじめて世界の文化を直接見ることができ、とても貴重な時間を過ごすことができたと思います。今回国際学会で発表できたことはこれから社会に出たとき、とても大きな自信につながると思います。また、今回の発表で力が足らずに英語でうまく言えなかった部分や、どのように発表を工夫すれば世界の人に伝わるかを反省しこれからも努力していこうと思います。



Student report for attending an international conference

大学院生産環境工学専攻博士前期課程

2回生 Y. E. A. Elsamani

I have participated in IMECS 2016 international conference in Hong Kong. The conference period was from March 16th till March 18th. My presentation was on the third day of the conference on March 18 at 2:00 pm. My presentation belongs to the International Conference of Control and Automation ICCA.

The conference was a really good chance to interact with professional from all over the world and gave me a good information about many projects that related to my field.

Also, after finishing the academic work we took the chance for site seeing inside Hong Kong.

Finally, I would like to thank the Kogyokai for supporting our trip.

国際学会に参加した学生の報告

私は3月16日から18日に香港で開催された国際学会 IMECS 2016に参加いたしました。私の発表は3日目の3月18日2時からで、制御及びオートメーション分野の ICCA (International Conference on Control and Automation) という部門で発表しました。

今回の国際学会は私にとって世界各地からの専門家と交流する非常に良い機会であり、自分の研究分野に関連する多くの研究プロジェクトに対する良い情報を得ることができました。

また、短い時間でしたが、学会が終わってから帰る前までの間には香港市内を観光して、異なる文化を知り楽しむことができました。

最後に、今回の国際学会参加を支援していただいた工業会に感謝致します。



学生活動援助費

学生活動援助費（機能材料工学科）－新入生合宿研修の報告

機能材料工学科 青野宏通（工化61）

機能材料工学科では毎年工業会の学生活動援助費をこの新入生研修の費用の一部に充てさせていただいております。お蔭さまで新入生が経費負担することなく実行することができ、たいへんありがたく思っております。平成28年度については既に4月中旬に研修を行い学生活動援助費を使用させていただいておりますので、ここでは最新の平成28年度について書かせていただきます。

この1泊2日の国立大洲青少年交流の家での合宿研修も5年目となり、新入生（72名）全員、教職員10名以上、大学院生および卒業生数名が参加しました。今年は、熊本地震の直後であったことより、余震による緊急地震速報におびえながらの研修となりました。毎年のことですが、学生自身が機能材料工学科で学んでいく為の目的や仲間を強く認識するためのきわめて大切な研修であると考えております。今年度は学科長という立場で参加させていただき、「学科の紹介」では、卒業生の進路を具体的に示し、「4年後の自分を強く意識する」ことを述べ、「進学」や「留年」について考えさせました。また、「新入生へのアドバイス」ということで、今年度から大学院に進学した3名の先輩（愛媛大学・奈良先端科学技術大学院大学・ペンシルベニア大学）から、4年間自分らが学んできたこと、後悔したこと、良かったことなど、ざっくばらんに話をしてもらい、新入生も4年後の自分を意識できたのではないかと考えられます。

その後、教職員や大学院生を交えた夕食のバーベキューの懇親（写真1）の後、夜は材料懇談会ということで3組に分かれ、担当教員から「材料の面白さ」についての講義や実験を行いました（写真2）。翌日は、朝の集い、朝食の後、バスで移動し、新居浜の銅山記念館での研修（写真3）を行い、別子銅山の歴史について学びました。終了後、大学に戻り研修は終了です。

この研修は、教職員や大学院生と話をする良

い機会でもあり、今年も新入生にとって良いスタートとなったのは間違いありません。この援助のおかげで今年も充実した新入生研修となりたいへん感謝しております。



写真1 バーベキューによる懇親



写真2 材料懇談会（材料の面白さ）



写真3 研修後の集合写真（銅山記念館）

学生活動援助費報告－情報工学科平成28年度新入生オリエンテーション

情報工学科 甲斐 博 (院情H4)

情報工学科では新入生と教員や先輩との交流をはかるため、毎年、講義「新入生セミナーA」でオリエンテーションを行っています。今年のオリエンテーションは2016年4月18日(月)に松山城で行いました。参加者は、1年生83名、高専からの3年次編入学生4名、2年生5名、TAの大学院生6名、教員13名の合計111名です。この日の天気予報は曇一時雨で出発前には水たまりができない程度の雨が降っていましたが、お弁当を食べる時間にはあがってました。

新入生を含めた参加者は講義室（工学部4号館E421）に集合し、10人程度のグループに分かれてもらい松山城に向けて出発しました。9つのグループに分かれることになりましたが、ばらばらにならないように1つのグループには教員やTAが2名ついて案内しました。愛媛大学から松山城ロープウェイ乗り場までは徒歩で、そこからはロープウェイやリフトを利用し、

降りたらまた徒歩で天守閣まで向かいます。

松山城天守閣前の本丸広場ではグループでまとまって座り、お弁当を食べながら学生同士お互いに自己紹介やメール交換をしました。また教員やTAとも講義や松山での生活について情報交換しました。

交流の輪を広げるために課題シートを用意していただきましたので、お弁当のあとは課題シートを使ってグループ外の人とも情報交換しました。新入生にとって有意義な時間になったのではないかと思います。

また、新入生は学生証とスタンプラリーカード（松山市が県内の大学の新入生に配布）があれば松山城に無料で入場できます。教員やTAとともに天守閣を見学しました。

工業会にはお弁当やロープウェイや松山城のチケットの費用について補助をいただきました。ありがとうございました。



ロープウェイ・リストで山頂まで



本丸広場でオリエンテーション



グループで食事



課題シートの記入

■愛媛大学工業会東京支部の現状報告■

2015年～2016年7月

支部長 鳥海基忠

1. 活動状況

例年通り、①2015年10月に支部総会+講演会+懇親会の開催（写真参照、58名の参加）、②関東圏他学部同窓会/土木海洋会のそれぞれの総会/講演会へ参加、③学部同窓会支部長が愛大校友会首都圏支部理事を兼務の現ルールにより、愛大校友会活動に参加（役員会、就活学生懇親会、総会/講演会）、④工業会本部役員会/理事会への参加と提言、⑤工業会本部からの会誌原稿執筆依頼対応、⑥ホームページ改編に参加

2. 運営重点テーマ

(1) 東京支部会員名簿の充実

- ・名簿データが古いものに戻った件の解決→済
- ・工業会本部名簿と支部名簿の統合を実施
- ・土木海洋会関東支部と連携

※結果として把握している支部会員数は、2014年1,186名→2015年1,614名→2016年7月1,900名

(2) 電子メール名簿の充実

・本部情報、支部総会返信はがきから電子メールアドレスでの名簿を別途管理。総会連絡については封書連絡と併用。総会案内以外は電子メール支部会員のみに連絡。封書連絡は必要最小限に絞っていき将来的には電子メール連絡に変更予定だが、アドレスが無効になった時の対処方法（HPの活用など）が必要

・電子メールアドレスを把握している会員は500名程度。年間に10%以上のアドレスが無効となっている状況→封書連絡の回答でメンテしているのが現状

(3) 工業会本部との連動

- ・武田会長のおかげで本部活動が活性化してきたので、東京支部としても全面協力。
- ・2016年6月本部理事会で、名簿委員会/HP委員会に支

部より委員を出すことを提案し了承された。東京支部から菊池顧問を委員として推挙した。

3. 運営課題

- ① 総会以外の活動が昨年は未実施。（過去には都内ツアー、事業交流会、落語会鑑賞などを実施。花見遊覧船ツアーは企画だけで実現できず。）
- ② 今期役員体制は9名でスタートしたが、昨年から今年秋までに、30代、40代、50代それぞれ1名の支部役員が首都圏から転出。残った6名の役員の交代を想定した新たな役員の増員が必要。
- ③ 愛大各部同窓会の活動拠点であった田町の愛大サテライトオフィス東京が大学の意向で閉鎖（場所を船堀に移動して存続はしているが愛大専従者不在）。同窓会へのサポートが大幅に低下した

3. 支部総会の現状

- (1) 参加者の年齢が高い → 若い人への連絡がつかないのは一つの要因。
- (2) 総会は楽しい → 参加者の満足度は非常に高い。
- (3) 知っている先生や同級生に会いたいという要望が強い → ここ数年は講演の先生から教え子に声をかけていただいて再会の場としている。名簿が充実すれば、もっと先生と卒業生の仲介役が努められるはず。

4. 会誌をお読みになる関東地区在住の会員の方へ

総会などは大変楽しい場ではありますが、若い方の連絡先が分からず、総会参加常連の高齢化により参加される方が減っています。写真の2015年総会、その後の2016年総会も既に終了。次回の東京支部総会が2017年10月に同じ法曹会館で開催予定です。東京支部からの連絡を受け取った事のない卒業生の方は下記アドレスまでご連絡ください。お願いいたします。

kogyukai.tokyo@gmail.com



東海支部活動便り

東海支部長 兵頭 修 (機46)

愛媛大学工業会東海支部(愛知, 三重, 岐阜, 静岡)の会員の皆さん! 皆さんは, 愛媛大学工学部を卒業されて, それぞれ何年過ぎされましたか? その間, 様々な分野でいろいろな経験を積まれ, 活躍されていると思いますが, こころで, ほっと一息入れて, 愛媛大学での学生時代を思い出しませんか?

そこで, 提案ですが, 皆さんの様々な人生経験を少しお話しして頂くとともに, 愛媛大学の近況を現役教授から, 直接, お話が聞ける懇親会を目的とした東海支部総会に, これまでの思い腰を上げて, 一度は, 参加してみませんか? 最近の支部総会参加者は, 20名前後で推移していますが, 東海支部会員数(646名)からすると, この2倍の参加者が望ましい姿と思われます。今年は, 少し趣を変えて, 参加者全員を, トヨタ産業技術記念館見学に招待いたします。

青春時代の技術屋としての好奇心を再燃させて, ぜひ, ぶらりと, ご参加願います。そして, 諸先輩方の貴重な経験談や後輩のまぶしい活躍ぶりを, 一緒に食事をしながら談笑し合うことで, 少しでも, 明日へのヤル気の源にして頂ければ, 幸いです。また, 現役バリバリの教授をお招きして, 愛媛大学の近況報告をして頂きますので, 世界に向けて活躍する愛媛大学工学部の逞しい姿を, 直接肌で感じて頂き, その卒業生であることを誇りに思って頂ければ, 幸いです。

最後に, お近くの愛媛大工学部の卒業生を見つけて, お互い, お誘いの上, 今年の東海支部総会に, ぜひ, ご出席頂きますよう, お願い申し上げます。

(2016年10月15日JRタワーズ内居酒屋の予定/詳細は後日御案内)



〈東海支部総会風景 (2015年)〉

平成27年愛媛大学工業会近畿支部の総会&懇親会報告

近畿支部長 渡 邊 武 晴 (機42)

近畿支部では平成27年度総会&懇親会を平成27年10月31日(土)に大阪第一ホテルで開催しました。

当日は工業会本部より武田会長、学校より情報工学科の小林真也教授をお迎えし、総勢31名の出席者での(昨年度より1名少ない)開催となりました。

総会では、支部の活動状況、新体制(新幹事3人追加)、会計などが報告通りの内容で承認されました。

引き続き行われた懇親会では、武田会長からはホームページの改善や、名簿の精度アップ等、工業会の取り組みの状況や課題のお話を頂きました。また、小林教授からは最近の学校の構内の様子や学校間の競争の中でいかに評価を上げていくことが大事か、またOBがいかに充実した人生を歩んでいるかも間接的に出身学校の評価につながるといったお話をプロジェクターを使って分かりやすくお話し頂きました。引き続き白石幹事(生機45年)の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。

学校時代の懐かしい話や近況を語り合ったり、初めての方と名刺交換したりで賑やかな懇親会となりました。

このあと出席者全員が順番に近況を報告しました。それぞれ意外な分野での活躍ぶりが披露され大いに盛り上がりました。

最後に、全員で学校歌、逍遙歌を唄った後に、三輪幹事(電子48)の万歳三唱で会を締めくくり来年も元気に再会を約して閉会となりました。

新しい役員体制と当日の出席者を下記します。

1. H27年度愛媛大学工業会近畿支部役員

	氏名	学部	卒年
支部長	渡邊 武晴	機械	S42
理事	氏家 久和	機械	S32
理事	丸山 明彦	機械	S37
幹事	白石 健	生機	S45
幹事	戸川 悦男	機械	S46
幹事	多田 博幸	生機	S48
幹事	金山 重治	生機	S45
幹事	三輪 幸一	電気	S48
幹事	梅村 泰史	冶金	S49
新幹事	柏原 繁	生機	S45
新幹事	山崎 裕司	機械	H5
新幹事	峯山 佳之	院電子	H15

新幹事です。
宜しくお願
い
します。

2. 出席者

工業会	武田 壽会長	生機45	河端 豊	電48	谷岡 正昭
情報工	小林真也教授	生機45	柏原 繁	電48	三輪 幸一
機33	佐々木武雄	生機45	田坂 惇雄	院電子H15	峯山 佳之
機械37	丸山 明彦	生機45	島 和生	工化39	石川 功
機械42	渡邊 武晴	生機45	白石 健	工化47	藤村 正
機械47	秋本 龍夫	冶49	梅村 泰史	工化47	藤本 保
機械48	多田 博幸	冶金45	池上 博志	資化59	内倉 斉
機械51	池田 義昭	冶金46	三好 良一	応化H21	永田慎太郎
機H2	増田 朋之	院冶47	富田 和幸	土木57	三木 康義
機H5	山崎 裕司	冶金50	長尾 伸明		
生機45	金山 重治	電38	湯本 秀明		

3. 次年度（平成28年）の近畿支部総会&懇親会の予定

少し気が早いのですが、平成28年の近畿支部総会&懇親会の予定が下記のように決まりましたので、支部会員の皆様方におかれましては、早速来年の予定に加えて頂きますようお願いいたします。

1. 日時 平成28年11月26日(土)
11:00~14:00 (10:30より受付)
2. 場所 大阪第一ホテル
(JR大阪駅前の大阪マルビル内)
〒530-0001
大阪市北区梅田1-9-20
TEL 06-6341-4411
〈JR大阪駅から徒歩2分〉
3. 会費 3,000円



岡山支部だより

岡山支部長 石井正男(機43)

岡山支部では平成27年度支部総会・懇親会を平成27年11月21日(土)にアークホテル岡山で開催しました。ご来賓として工業会本部から武田壽会長、大学から大学院理工学研究科山下浩准教授をお迎えし、工業会および大学の近況等をお話いただき、総勢40名での開催となりました。

平成27年度は初めての試みとして、支部総会前に次田泰裕(院冶金50/博士生産H8)氏による特別講演「レアメタルと先端産業」で自動車・家電製品・携帯電話等の製造に必須な資源であるレアメタルのあらまし&開発現場の苦労話などを聴講し、講演の後には活発な質疑もあって会員相互の親睦を深めることができました。また、前年度に引き続く若手会員の参加奨励策(会費減免枠を大幅に拡大)については、一定の効果がみられるので支部活動活性化の一助として今後も継続する予定です。

支部総会ではご来賓の挨拶の後、幹事交代(退任:佐藤昌生, 新任:加藤一哉)、支部状況報告、そしてその後、会計報告が行われ、出席者の賛成多数を以て承認されました。

懇親会は、(支部顧問)柳井誠一氏(電23)

の乾杯で開会し、出席者から自己紹介・近況報告などで親交を深め、同ホテルで行われた二次会には23名もの方に参加いただき、大いに盛り上がりました。

平成28年度の支部総会・懇親会は、11月19日(毎年11月の第3土曜日)に開催予定で、支部総会前(11時~12時)には(講師)野村信福先生(愛媛大学大学院理工学研究科教授・博士)をお迎えして、演題『愛媛大学航空力学研究会と歩む研究生生活』の特別講演を予定しています。この機会に工業会に参加してみませんか!お待ちしております。

最後に平成28年度は、以下の役員と共に工業会本部並びに会員の皆様と意思疎通を図りながら岡山支部の活性化に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

支部長	石井 正男(機43)	幹事	加藤 一哉(海59)
副支部長	深井 孝一(電50)	幹事	天満 真士(土H1)
監事	西 雅彦(電子52)	幹事	多曾田高司(生機H5)
代表幹事	額田 信一(電52)	幹事	野村 修司(院機H11)
幹事	村上 佳教(土44)	顧問	柳井 誠一(電23)
幹事	藤川 智則(電55)	顧問	岡部 和義(機31)
幹事	多賀谷泰三(生機56)	顧問	黒住 肇(電38)
幹事	藤原 靖典(院機57)	顧問	黒住 洋司(機41)



平成27年度支部総会/2015. 11. 21 アークホテル岡山にて



平成27年度 懇親会後の二次会/2015. 11. 21 アークホテル岡山にて

広島支部報告

広島支部長 河野 徹 (土42)

1. 平成27年度の行事

(1) 総会・工場見学会

広島支部は例年通り、11月の第2金曜日に当たる、平成27年11月13日に総会を開催しました。総会に合わせて、2回目になる見学会(写真-1)も総会前に実施しました。見学会は広島市にある、コベルコ建機五日市工場で参加者は37名でした。この工場は、油圧ショベルやホイールローダなどの建設機械製造で新興工業国では造れない、日本ならではの製品・部品を製造している工場です。日経ものづくり主催の「強い工場アワード」を受賞されています。この工場には愛媛大学の卒業生も20名以上在籍されており設計部門を中心に各部署で活躍していると喜ばしいお話をお聞きしました。工場内は整然としておりクリーンで素晴らしかったですが、従業員の方々の元気で清々しい挨拶がとても印象的でした。この工場でも卒業生が活躍していることを確信しました。

引き続きホテル・センチュリー21広島にて総会と懇親会(写真-2)を開催致しました。今回は工業会より武田会長、大学より大賀副学長をお迎えし、52名の参加となりました。副学長のご出席で土木工学科出身の会員が例年より多く参加して頂いた事もあり盛会な総会、懇親会でした。

(2) テニス大会・イベント

第3回広島支部のテニス大会を海田運動公園

にて3月11日(金)に開催しました。今年は、登山イベントとの共同開催とし、総勢18名(テニス：16名、登山：2名)での大会となりました。昼食は予め準備しておいた豚汁をみんなで食べながら、和気あいあいの雰囲気となりました。今後このテニス大会を広島支部での親睦のメインイベントとして、若い方も参加しやすいものに育てていきたいと考えています。その他、昨年の秋にも登山イベントを実施し5名の参加がありました。今後も会員の皆さんの協力で継続していきたいと思ひます。

(3) 役員交代など

平成27年度より下記の通り役員の交代がありました。なお、鶴前支部長には平成21年より6年間支部長を務めて頂きました。また、継続的にイベントを企画する企画委員長のポストを新設して、綿部由聡(工化53)が就任されました。

支部長：河野 徹 (土42)

副支部長：橋本 一寛 (生機49)

会計監査：高津 和史 (生機46)

2. 平成28年度の行事予定

①平成28年度 総会と懇親会

日時 平成28年11月11日(金) 18:30~21:30

場所 ホテル・センチュリー21広島

(余興として「古今亭菊志ん」さんによる落語会を開催予定)

②登山イベント：10月、③テニス大会：3月



写真-1 コベルコ建機五日市工場見学会



写真-2 平成27年度広島支部総会

高松支部活動報告

高松支部長 谷 喜 文 (院電53)

工業会の皆さま、お元気ですか？

恒例の高松支部大会は平成27年11月20日(金)、リーガホテルゼスト高松において、大学より機械工学科の岩本幸治先生、工業会より武田壽会長をお迎えし、総勢31名にて盛大に開催致しました。

今回も忘年会シーズンを避け、11月開催にしたことなどで、参加者数も30名を超えました。

岩本先生からは、平成28年に新設される予定の「社会共創学部」や全国的に活躍している「二宮翔会」などについて映像を使って分かり易くご紹介いただき、武田会長からはHPリニューアルや名簿管理の改善など、本部近況についてお話し頂きました。

出席者は、電気34年の細包博祥先輩を最年長に昭和34～49年卒3名、昭和50～64年卒11名、平成1桁卒9名、平成10年以降卒6名と、各年代幅広く集まり、楽しい時間を共有できました。最後は、「工業会の旗」の下、お約束の記念撮影です。

今年も、春に再度集まりゴルフをしようということとなり、5月28日(土)に高松グランドカントリー鹿庭コースで行いました。8人、2組で楽しくプレーできました。

優勝は工化39年の樽谷様でNet 75.6の好成績でした。樽谷様は年末総会でも商品が当たっており実力をフルに発揮されました。

今年も忘年会シーズン前の11月18日(金)に高松支部大会を開催予定です。

香川県にゆかりの皆さん、年に一度、母校の話や近況報告で盛り上がってみませんか？



高知支部報告

高知支部長 中村考男(鉦40)

高知支部では、総会を平成27年11月7日(土)午後5時30分より、はりまや橋近くの料亭濱長で開催しました。

出席者は本部から武田会長、大学から曾我部工学部長と越智名誉教授をお迎えし、総勢22名の開催となりました。

総会に先立ち夕部雅丈工学博士(博士生産H13)による「南海地震はいつ起こるか」と題した講演会を開催しました。室津の隆起量から次の南海地震を単独で推定すると早ければ安政と昭和の関係から2034年に、遅ければ宝栄と安政の関係から2045年に。ただし、次の地震は連動地震になりそうで、推定が難しいこと。また、歴史上知られている南海地震は13回発生しており全て8月～2月で、3月～7月の間は起こっていない。13回のうち5回は12月に起こっていること等貴重な話を聞くことが出来ました。

総会では、武田会長から工業会の近況について、曾我部工学部長から大学を取り巻く状況について、越智先生からは、昨年テレビで坂本龍馬の「最後の手紙」が出てきたとの報道があった。叔父が前々から龍馬が亡くなる10日前頃に書いた「最後の手紙」を持っていると言っていたが本物かどうかかわからないと思っていた。本物とわかって龍馬記念会館に預かってもらって

いるとのことでした。

懇親会では、前回好評でありましたお座敷遊びや「しばてん踊り」を土佐の舞妓さんと共に行い大いに盛り上がり楽しい時間となりました。

翌日、毎年カシオワールドカップが行われているkochi黒潮カントリークラブで、ゴルフ大会を行いました。当日は生憎の雨で、黒潮コースはトリッキーであり難しいゴルフとなりました。成績はダブルペリア方式で曾我部工学部長がネットスコア74.8で優勝、越智名誉教授が準優勝、武田会長は懇親会のお酒が過ぎ、スコアを崩したようでした。



黒潮カントリークラブ 2015. 11. 8



第25回高知支部総会 於料亭「濱長」 2015. 11. 7

平成27年度『第23回愛媛大学工業会 愛媛支部総会』報告

愛媛副支部長（支部長代行） 木村正樹（院機54）

【日時】平成27年11月23日（月・祝日）

15：00から19：00

【場所】ホテル サンルート松山

（松山市宮田町391-8）

第23回の愛媛支部総会のご報告をいたします。ご来賓として

曾我部雄次 先生（工業会名誉会長，工学部長及び本部からのご出席）

大賀水田生 先生（愛媛大学 副学長・前工学部長及び本部からのご出席）

野村 信福 先生（愛媛大学 工学部機械工学科教授及び本部からのご出席）

をお迎えし、また、新社会人として6名と二宮翔会の2名をご招待しました。

最初に前支部長の星川浩三さん、監事の尾崎隆雄さん他、この数年でご逝去された会員のご冥福を祈り、黙禱を捧げました。

開会の言葉を司会の木村副支部長から、開催のご挨拶を武田支部長から申し上げました。ご来賓を代表して曾我部雄次先生から、愛媛大学および工学部の近況とご祝辞をいただきました。

総会では、平成25年度・平成26年度の支部活動報告と決算および監査報告、そして「役員改選」の議事では、新支部長に中谷雅男氏が推薦され、承認されました。また他の新役員のご推

薦・紹介にて役員改選が承認されました。その後、中谷新支部長を議長として、平成27年度の活動計画・予算（案）を説明し、承認されました。

総会終了後、相原恒博先生（電気30）から、「加齢による能力低下」の事例説明をいただきました。（80歳ではどうなるか。注意が必要であろう。）

総会後のご講演には、野村信福先生（愛媛大学理事も兼任されています）から、『愛媛大学航空力学研究会と歩む研究生活』－鳥人間コンテストで優勝するカギは？－として、二宮翔会での顧問としてのご活躍から、廃油から液中プラズマで水素ガスの発生装置、そして世界初の水素アシスト人力飛行の成功（全国ニュースでの紹介）などの興味深いご講義をいただきました。テレビのニュースでは、流されなかった貴重なお話も沢山ございました。

記念撮影の後、懇親会に移りまして、中谷支部長の挨拶の後、大賀先生からご祝辞をいただき、有吉先生の乾杯の後、皆さんご歓談していただきました。アトラクションとして、トーンチャイム演奏（“星に願いを”など）とビンゴゲームで会は盛り上がりました。最後は矢野顧問に中締めしていただきました。なお、ご来賓を含めて講演では47名、懇親会では41名のご参




~~~~~

加をいただいた，意義深い一日となりました。  
また，平成28年度には，さらに多数のご参加を  
期待しております。

（なお，これに先立ち，総会実行委員会を都  
合3回開催しております。）

~~~~~



現在の工学部本館（左）と1号館（右） 中央奥が5号館

機械工学科昭和38年(1963)卒同窓会 東京開催

美濃部 三 郎 (機38)

平成27年10月27日・28日の2日にわたり同窓会を持ちました。27日は浅草寺、東京スカイツリーの見学、夕食宴会は屋形船で浅草(隅田川)～お台場を巡りました。翌28日は将軍綱吉の側用人の柳沢吉保の建立した六義園、子規庵を訪問しました。

当同窓会は、大阪・松山・東京と2回ずつそれぞれ2年毎に開き12年が経過しました。当科は49名卒のうち、残念ながら12名が物故者で、

今回24名が出席しました。出席できなかった体調不良の仲間も結構多く、ここで一旦同窓会を打ち切ることと致しました。

我々、戦前に生を受け戦中戦後の苦勞もありましたが、高度成長の中、比較的安定した生活であったと感謝して居ります。これは先生方、又関係者の方々の支援あつての事と今さらながら有難い事と存じて居ります。皆々様もご健勝あらんことをお祈り致します。



電気工学科昭和39年卒クラス会

渡邊 健 二 (電39)

11月11日13時愛媛大学城北キャンパス正門に集合して、開幕の予定であったが、快晴に恵まれ、高野・山本の両氏が早期出現を果たし、渡邊と共に午前中にミュージアムを見学。午後から、磯野、本田、嶋崎、小竹各氏が加わり、昭和38年に我々が初めて入居した工学部の旧本館（現 総合研究棟2）や元教育学部グラウンドに建った現工学部本館を歩いた。大学の変化を見てもらいたかったが、最近の世相からか“まあ、そんなものでしょう！”という感じだった。午後3時、道後メルパークへ。田中、神谷、八尾氏らも加わり、参加者16名。恩師黒河進先生を迎えて、18:00開宴。写真・ビデオ制作を丸岡、岡崎氏がやってくれた。次期クラス会を香川県（代表 丸岡氏）にお願いして、楽しい宴会を終わった。

翌12日は、八尾氏は別子ラインを、三好氏は足摺を観光して帰宅したとの事。幹事（嶋崎、渡邊）の事情で観光ツアーを企画しなかった。代わりというのではないが、JR今治駅の表玄関に猿飛佐助像があることを紹介します。像には以下の説明文が付いています。

『猿飛佐助と山田阿鉄

明治・大正時代、空前の大ブームとなった大衆娯楽小説「立川文庫」の原作者は、今治市出身の山田一族である。そして、その執筆の中心として活躍したのが、山田阿鉄である。

立川文庫は明治44年から約13年間に196巻出版されたが、どれも人々の心をとらえ、爆発的な売行きであった。中でも、大正3年に発売された第40巻「忍者名人猿飛佐助」は大ベストセラーとなった。ここに、“忍者といえば猿飛佐助”といわれるほどのスーパースターが誕生したのである。その後猿飛佐助は、真田十勇士とともに映画やドラマ、漫画などに次々と登場し、後世の文壇にも多大な影響を及ぼしている。

日本全国、猿飛佐助を知らない人はいないといってもよいだろう。時代を越えて人々の心の中に生き続け、これからも語り継がれていくことだろう。

この偉業を成し遂げた山田阿鉄の遺骨は、今治市の観音禅寺に静かに眠っている。』

（幹事：嶋崎、中川、渡邊）



第12回電気工学科昭和40年卒クラス会

高山直樹(電40)

懐かしい仲間達は早春の3月16日の午後、思い思いの出立ちで初めて上州群馬の地に降り立った。そこでは陽光のなか銀色に輝く浅間山が、遠来の訪問客の我ら12名を温かく迎えてくれた。

この一帯は、古くは戦国時代の上杉・武田・北条・徳川など諸侯の陣取り合戦の地、また近くは明治政府が富国強兵・殖産興業政策の一環、重要な輸出産業として早くから生糸の大量生産事業に傾注の地でもあった。

我がクラス会も2004(平成16)年11月滋賀の里琵琶湖湖畔の初回開催から回を重ねて10年が経過し、今回からいよいよ2nd Decadeに入る。今回幹事の任を担うにあたり些か趣を変えるべく、景勝地観光中心の従来型オプション行事に代わって、富岡製糸場見学を提案。しかし課題があった。その一つはクラス会ならではの演出に欠かせない温泉場のavailabilityと、寒冷地ゆえの降雪や道路凍結などの気象状況だ。調査の結果そこは日本屈指の温泉大国、近くに磯部温泉の存在を確認、また最後まで懸念の気象状況も当地への出発3日前には全くの杞憂となった。

かくしてメタボで膝関節症持ちの幹事のマイカーを除き他のメンバー11名は、飛行機、新幹線やローカル線、高速バスなどを乗り継ぎ、気楽な一人旅を満喫しながら首尾よく安中市磯部のクラス会会場に安着した。クラス会場のホテル磯部ガーデンは、古くから♨(温泉)マークとお伽噺「舌切り雀」伝説の発祥の地・磯部温泉に在る。これまでは近隣の軽井沢温泉や草津温泉などに押されて、名湯多い群馬にあっては知名度が低かった。しかし昨年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公の夫・楯取素彦ゆかりの地でもあり、また富岡製糸場世界遺産登録の相乗効果で客足も増加中。特に大浴場は多彩で、ホテルチェックイン後のメンバー各位には、ゆっくりと湯浴みなど大いに寛いでもらった。

18時より同期会開始。まずはホテルロビーで舌切り雀物語のモニュメントと共に記念写真撮影。そのあと宴会場に移りいよいよセレモニーの開始。今年は残念ながら冒頭、予てより加療中の三野茂君逝去の報告から始めることになった。1月11日突然の彼の逝去で、クラス35名のうち2名が既に黄泉の国へ旅立ち、1分間の黙



(後列) 井上 上甲 多賀 中筋
(中列) 田中 須之内 重松 三好
(前列) 高山 仙波 鶴籠 清家

禱をささげた。家族葬の三野君の葬儀には、生前奥様への遺言があり昵懇の橋本さんと田中さんが出席。また49日法要には好物だった伊予柑（須之内さん手作りの品）を霊前にお供えできたのは幸いだった。

乾杯はホテルに一番乗りの清家さん。彼の軽妙なスピーチで、その場の雰囲気はすぐさまクラス会モードへと一変した。料理は上州麦豚のみそ焼きに当館名物蒟蒻天婦羅（イソベ焼き）などの会席料理を賞味。次第にお酒も進み春風駘蕩の雰囲気の中で、今回都合で参加できなかった仲間のうち15名の近況を、幹事より披露。因みに一部奥様からわざわざ電話連絡をいただくなど、幹事自身大いに励みになった。総じて健勝だが、中には今なお重篤な病で入院中の方もおられる。1日も早くお元気を回復されるよう祈るや切。

今回群馬に参集の12名は、ほぼ毎回出席の強者（つわもの）達ばかりだ。いまだ健康にして意気軒昂で実に頼もしい。お決まりの出席者各自発表の近況を聞くにつけ、定年退職後の人生模様は様々だ。野菜の栽培や伊予柑園をプロ並みに手掛けながらコミュニティーとの絆を一層強め活躍のもの、新しい農業の経営モデルに向き合おうとしているもの、古文書探求など自己研鑽に余念がないもの、スポーツや趣味の幅を広めながら旅行など夫婦でエンジョイしているものなど。共に一堂に会するこの幸せに感謝、これから先いつまでもこの平穏が続くよう念じて止まない。

車座で始まった二次会は、いつもながら談論風発。殊にこの日は米国大統領候補予備選のミニ・スーパーチューズデイ、話題は政治から宗教など広範に及んだ。また、クラス会の今後につき忌憚なく意見交換ができ有意義だった。加



齢とともに負担増となる幹事業務をできるだけ軽減しながら、今後もクラス会継続を基本に衆議一決。次回第13回は関西地区で幹事は三好さん担当、オプション案として昨年3月保存修理竣工の姫路城見学の検討が決まった。

翌日は、参加者10名で今回オプション行事の富岡製糸場見学に向かった。ホテルから富岡製糸場の在る富岡市への移動はタクシーとマイカーに分乗。新装の上州富岡駅にて手荷物を預け、徒歩にて富岡製糸場の正門を目指した。もちろん開門（9時）と同時の一番乗り。本来20名以上必要な団体扱いのガイド付きツアーの優遇を受け、地元ボランティアの巧みな解説を聞きながらゆっくり場内を見学。富岡製糸場は、1872（明治5）年操業開始の国営工場だ。その役割は世界の製糸先進国フランスの技術を導入し、モデル工場として広く民間に普及させること。外国の指導員を招聘しての技術導入と工場建設・操業の経緯や逸話の多くを聞き、当時の日本の意気込みや潜在能力の高さなど強く印象づけられた。

見学後は上州富岡駅に戻り上州電鉄で帰路に向かう仲間達を駅頭に見送り、2日間の非日常の大団円となった。

生産機械工学科昭和44年卒業同級会

井上 要 (生機44)

平成27年10月18日(日)・19日(月)神戸市北区有馬町のホテル「メープル有馬」で第4回同級会を開催しました。会員45名の内、17名の出席でした。昨年まで多数参加が続いて、宴会翌日にはゴルフ会の参加者も多く楽しみにされて来ましたが、今回は中止となりました。その代わりとしては、風光明媚な有馬温泉散策道を歩く準備として靴、背負袋、手袋、帽子と万端整えて翌日出発とか、当日早めの到着後に散策を楽しまれた方もありました。

私は前日に大洲市へ帰省し、当日朝、JR大洲駅から松山－岡山－神戸と乗り継ぎ参加予定としていましたが、松山より3駅目付近で踏切事故発生のため松山以降は3時間不通との情報がありました。この3時間を有効活用するため、大洲－長浜－松山と海岸線を各駅停車して写真撮影や飲食と沿線の観光案内サービスをする女性乗務員6名と2輛の気動車で有名な「伊予灘ものがたり」の旅をすることとしました。大洲－内子－松山の内陸を特急で移動すればトンネルが多く、味気ない経路でも50分で速く移動するのがこの内陸線開通以来の行動でした。

以上の事情から、私が目的のホテルの宴会場に到着したのは、集合予定17時より70分後で、

開宴予定18時を過ぎ、幹事挨拶も終わって食事に入っていた頃でした。遅刻の理由など手短かに説明後、荷物を宿泊室へ運び、入浴後、宴会の席に戻ったのは、19時前でした。

出席予定者の全員集合により、写真撮影をし、お料理とお酒を頂きながら、隣席者との会話ははずむに従って、席を回りお酌をし合う等のくつろいだ雰囲気の上り上がり心地よく楽しみました。

宴会終了後は別室へ移動しての座談会が24時頃まで続いたようです。

今回の主幹事は関西地区の益野君、他の幹事は関東・中部地区の森脇君・四国地区の篠崎君、中国・九州地区の中西・島津の両君で、その奉仕に感謝します。

次の開催地は中部地区で、主幹事は竹久(旧姓 川崎)君、他の幹事は今回と同じ諸君の予定です。詳細は平成28年5月以降に主幹事から連絡頂きますので、多くの参加をお願いします。

出席者：井上、打上、胡、小川、竹久(旧姓 川崎)、篠崎、島津、蟬谷、丹原、月原、寺尾、中田、羽仁、益野、武田(旧姓 村上)、森脇、横山



生産機械工学科 昭和46年卒同窓会報告書

久米 一 正 (生機46)

平成21年よりスタートし、2年ごとに開催している我々の同窓会もはや4回目となりました。第1回目の松山より京都、広島と開催してきましたが、今回は再び松山ということになり11月29日(日)、皇室ご用達でもある道後温泉の老舗ホテル「ふなや」に集合いたしました。参加メンバーもほほいつも通り15名とまずまずでみんなまた元気に参加することができました。中にはご都合で宴会に間に合わず午後10時ごろ到着されて2次会から参加という方もおられ幹事としてはうれしい限りでした。

午後3時にホテルに集合し宴会が始まるまでの時間は各自自由に温泉に入ったり街歩きを楽しんだりされたようです。中には早めに到着されてゆっくりと近辺を歩かれた方もおられたようです。ちょうど道後では「道後オンセナート2015年」が開催されており、道後温泉本館なども蜷川実花さん作のアートで入り口や2階の窓などが飾られておりいつもとは異なる華やかさも見せておりました。

午後5時半より宴会が始まり、今回の予定や翌日の内子町散策についての説明の後、各自近況やこの2年間の出来事などを順次報告しました。まだ現役で仕事に頑張っておられる方や完

全リタイヤをしてお孫さんの世話に専念されている方などいろいろですが、皆さん元気で頑張っておられることをお互い確認し安心しました。宴会は8時30分くらいで一応中締めとし、部屋へ移動して飲み物とおつまみで2次会とし引き続き話に花を咲かせました。遅れて参加の方も10時くらいに合流され遅くまで大いに盛り上がりました。

翌日は朝食をとったあと9時にチャーターしていたバスにて江戸時代に木蠟の事業で栄えた内子町を訪れ古い町並みを歩きました。今回はボランティアのガイドさんをお願いしていたので、その方のご説明を聞きながらじっくりと豪



商の屋敷「上芳賀邸」や「街並み資料館」,「内子座」などを見て回りました。私も今までに何度となく仕事上でお客様をご案内したことがありましたがパンフレット片手に見て回るという形でしたので,今回は今までと違って本当に内容のあった街歩きとなりました。2時間余りをかけてじっくりと歩いた後は元豪商のお屋敷だった「下芳賀邸」にて昼食をとったあと内子町を後にし, 飛行場, JR松山駅, 大街道など

で逐次お別れをしながら道後「ふなや」着となりました。

この日は有志の方たちがもう一晚松山に泊まり3次会を実施されたようです。

次回は2年後, 宴会の席で決めた通り香川での実施の予定です。それまでみんな健康に留意し再会したいと思います。

平成28年度冶金学科参期会報告（冶金学科，昭和45・46・47年卒）

三好良一（冶46）

7月12日(火)13日(水)に、平成28年度の冶金学科参期会を和歌山市で開催しました。今年は、宿泊施設の段取りのためウィークデーに行いました。梅雨のためお天気は悪かったのですが、沢山の出席者があり、例年のごとく楽しく過ごしました。場所は、南海和歌山市駅前の「ワカヤマ第二富士ホテル」です。

http://www.booking.com/hotel/jp/wakayama-daini-fuji.ja.html#map_opened-show_id1247058

参加者（敬称略，順不同）は、体調が回復された西田先生。45年卒の池上博志，久保洋，岡本正治，田中和成，谷耕治，津郷雅央，幹事の布居徹，前田和彦。46年卒の稲葉恒太，岡隆，幹事の加藤久博夫妻，源田剛，花本和典，貞広公良，三好良一，村上栄一。47年卒の久保和義，藤田昇平の総勢20名です。いつも参加頂いている，46年卒の中谷雅男さんは今回は急病のため欠席されました。早く良くなってご一緒に語り合いたいです。岡本章信さんは昨年死去されま

した。ご冥福を祈りたいと思います。

18時30分から宴会。今年は，フランス料理のフルコースで，ビールで乾杯した後，赤白のワインをそれぞれ4本も空けて，いつも通りの賑やかさで，1年振りの再会を愉oshimしました。その後は，20時30分からタクシーで，街中の「GrandSnack Setsu」に繰り出し，12時頃まで写真のような状態。皆さん酒に強い。その後，ある部屋では缶ビールを買ってきて，2時頃まで話の続き。

13日は，6時30分から朝食，8時30分からマイクロバスで出発し，和歌山城を見学する予定でしたが，生憎の梅雨空のため急遽中止。ゆっくり朝食をとり歓談後，車に分乗し10時30分から12時まで（株）花王工場を見学させて頂きました。この工場は環境にやさしい取組をされており，その説明を詳しくして頂きました。見学しなかった津郷さんは，先にマリーナシティで黒潮温泉へ。





その後、12時30分マリーナシティで昼食。マリーナシティでは、「近畿大学マグロ」の解体ショー等を見物した後、海の幸のバイキングで昼食後、和歌山市駅、JR和歌山駅まで送迎して頂き、解散。

来年は、46年卒の木村さんの段取りで、10月頃に姫路の祭りと姫路城の見学の予定です。再

来年は、久々に松山で行いたいと思いますので宜しくお願い致します。お世話頂きました工業会事務局、参加頂きました方々に深く感謝致します。

幹事：布居 徹（冶金45卒）

加藤 久博（冶金46卒）



新型機体，製作開始

愛媛大学航空力学研究会 二宮翔会

代表 辻 下 新 也 (機械3年生)

今年で二宮翔会は創部から14年目を迎えました。私たちは八幡浜市出身の二宮忠八が考案した、世界初の模型飛行機「カラス型模型飛行器」を現代に蘇らそうと、人力飛行機の製作に励んでいます。今年は新入生の部員が10数名と多く、工学部を中心とした総勢23名で活動しています。

過去の大会出場回数は6回。最高記録は2010年の769mであり、去年2015年では712mを飛行しました。創部10年以上を経てようやく飛行できる機体を製作できるようにはなりました。しかし、やはりもっと遠くまで飛ばしたい。そして近年の記録をみると頭打ちをしているように見えます。そこで、私たちの機体には大きな変革が必要だと思い、何を変えれば良いのか考えました。そこで最も改善する余地があるのが骨組みの刷新です。

骨組み（フレーム、桁）にはCFRPパイプを使用しています。それは高価で、かつ設計に関する知識を持った者がいませんでした。これまでは琵琶湖に着水したパイプを10年以上使いまわしてきました。そこで私たちは部費を積み立て、工業会さまからの援助金を積み立て、そして顧問の野村先生からの協力を得てフレーム用のCFRPパイプの購入金額の達成が叶いました。設計に関しても構造の設計を学び、熟考を

重ね1つの答えを導き出しました。二宮翔会は新しいフレームの下、新型機体の製作に取り掛かります。

設計にかかる期間中も、翼やプロペラなどの他の部分の改良と製作のスキルアップに努めて来ました。機体の製作は夏に本格化し、来年春に初飛行できるよう活動中です。今年の鳥人間コンテストは出場しませんでした。来年にはこの新型機体を全面的にアピールし、出場を叶える予定です。そこで自己記録の更新と更なる躍進をお見せできるかと思えます。今後出来る機体は過去最高のものになるでしょう。

今回フレームの刷新までたどり着いたのはまた、皆様のご支援あってのことです。ですが今回刷新するのは、時間と予算の関係上、骨組み（フレーム、桁）のうちパイロットが乗り込むフレームのみです。翼の内部の支柱である桁の全取り換えはまた今後の課題になって行くと思われれますので、長い目でお付き合い下されば幸いです。

最後に、我々二宮翔会は今後も琵琶湖でのビッグフライトを目指し活動して行きます。応援して下さる皆様のご期待に添えますよう、これからも精一杯に努力して参りますので、今後とも二宮翔会をよろしくお願い致します。



テニス大会

第37回工業会テニス大会報告

十 河 基 介 (生機H4)

西日本に40数年ぶりという大寒波が襲来し、前日の予報では大雪が予想され開催が危ぶまれましたが、コートに積雪はなく小雪舞う極寒の中、昭和44年卒業の神谷さんを筆頭に卒業生7名、愛媛大学職員1名を含め総勢36名の参加者で1月24日に本学テニスコートで開催されました。

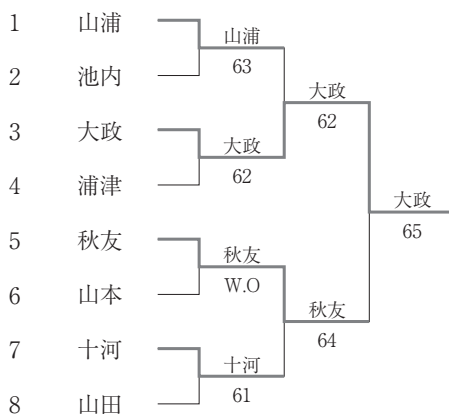
試合に先立って行われた開会式では池内理事長からの挨拶があり、その中で工業会の紹介や果たしてきた役割などについての話がありました。本大会は老若男女の区別なく行われており、女性と60歳以上にはハンディが設定されています。学生は選手として試合を盛り上げてくれるだけでなく、運営などの下支えもしてくれてお

り、大会を楽しむことができました。(時々には応援もしてくれます。)

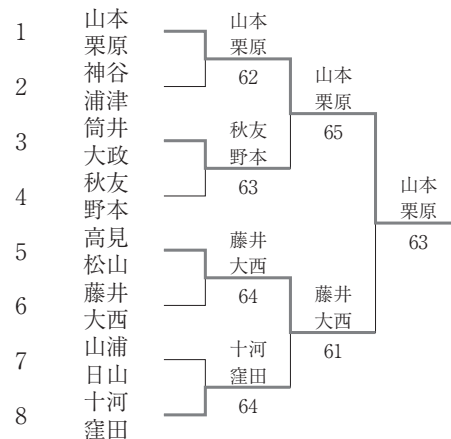
ラケットもまともに握れない寒さの中、各コートで熱戦が繰り広げられ、シングルスでは昨年準優勝の秋友さんが決勝に進出、大政さんとの男女対決となり接戦を制した大政さんの優勝となりました。ダブルスは2連覇中の山本さんが栗原さんとのペアで勝ち進み見事3連覇を果たし、大会は無事に終了しました。

ところを変えて生協食堂で行われた表彰式では立場や世代を超えて交流を深め、意義深い一日となりました。次回の工業会テニス大会でも、多くの皆様の参加をお待ちしております。

シングルス (準々決勝から)



ダブルス (準々決勝から)



参加者 (敬称略)

神谷 (土S44), 藤井 (電S52・教員),
山田 (海S59), 池内 (電S62),
十河 (生機H4・職員), 村上 (電H25),
筒井 (応H27), 山本 (職員)



平成27年度愛媛大学工業会事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

■支部総会 案内状発送総数10,848通 総参加者数295名(内来賓28名)

支部	案内状発送数 総参加者数(内来賓)	開催日時	会場	本部からの出席者
東海	641通 21名(2名)	H27. 9. 26(土) 15時より	嘉文	武田壽会長 機械 野村信福教授
近畿	2,489通 31名(2名)	H27. 10. 31(土) 11時より	大阪第一ホテル	武田壽会長 情報 小林真也教授
東京	1,807通 58名(13名)	H27. 11. 1(日) 14時より	一般財団法人 法曹会	武田壽会長 情報 高橋寛教授
高知	239通 22名(2名)	H27. 11. 7(土) 17時30分より	濱長	武田壽会長 曾我部雄次工学部長 越智順治名誉教授
広島	1,605通 52名(2名)	H27. 11. 13(金) 19時より	センチュリー21	武田壽会長 大賀水田生副学長
高松	976通 30名(2名)	H27. 11. 20(金) 18時30分より	リーガホテルゼスト高松	武田壽会長 機械 岩本幸治講師
岡山	897通 40名(2名)	H27. 11. 21(土) 11時より	アークホテル岡山	武田壽会長 応用化学 山下浩准教授
愛媛	2,194通 41名(3名)	H27. 11. 23(月・祝) 15時より	ホテルサンルート松山	曾我部雄次工学部長 大賀水田生副学長 機械 野村信福教授
茨城			活動なし	

■会議

- ・学内委員会……………平成27年4月16日
- ・会長会……………平成27年6月24日, 平成28年1月27日
- ・常任理事会……………平成27年4月28日, 5月21日, 6月22日, 7月27日, 11月5日(臨時)
- ・理事会兼総会……………平成27年6月28日
- ・新年会……………平成28年1月29日
- ・会誌編集委員会……………平成27年9月
- ・HP改善委員会……………平成27年8月25日(打ち合わせ), 10月13日
- ・名簿打ち合わせ会……………平成27年7月16日, 平成28年3月11日

■会誌第29号発行……………平成27年10月

■その他

- ・学生活動援助2件(機能材料工学科, 情報)
- ・HP更新・管理, 改善
- ・名簿調査・改善
- ・工学部寄付金
- ・卒業お祝い(505名分)
- ・退職教員お祝い(3名)
- ・テニス大会(平成28年1月24日)

各種団体からの寄付要請等について

愛媛大学工業会の出版事業は、現在、工業会会誌（年1回）と会員名簿に限られており、その他の出版物は発行していません。工業会から会員の方へのお願いや依頼事項等はすべて工業会会長名で行っておりますので、御確認下さいますようお願い申し上げます。

工業会編集委員会

冊子購読や広告掲載の勧誘等にはご注意ください

最近、本学の卒業生や在学生など本学関係者のみなさまから、愛媛キャンパス新聞会発行の「愛媛キャンパス」の定期購読や同誌への広告掲載を勧誘された、との問い合わせなどが本学へ多数寄せられていますが、愛媛キャンパス新聞会や、その発行する「愛媛キャンパス」は、愛媛大学とは一切関係ありません。

本学は、本学が発行する印刷物（広報誌）などについて、卒業生や在学生などのみなさまに購読料や広告料等をお願いすることはありません。

表紙写真／編集後記

第30号をお届けします。表紙の写真は、愛媛大学城北キャンパスの正門にある噴水彫刻「權持て、杖立てよ、鐸打ち鳴らせ」です。作者 濱田亨氏のホームページによれば、弥生時代の遺跡があり、しかもそこは豊富に水の湧く場所であったことから、「水の匂い」と「古代の響き」から連想される「石舟」をモチーフにされたとのこと。落成式をしてから1年半経過し、そこから続く約170メートルの「グリーンプロムナード」に随分なじんできたように思います。同窓生を誘って、鑑賞しに訪れてみてはいかがでしょうか。

愛媛大学工業会会誌第30号編集委員

都築 伸二, 青野 宏通, 山本 修嗣, 平山 和子